

◦ 設定されたテーマを全職員が納得しているか。

- 校長の考え（意志・本音）をしっかりと述べ、理解を得る。
- 全職員で話し合いはしたが、個人研究を中心として進めている。

**㊦** 一人ひとりの教師が意欲的に研究をするためには、十分な話し合いの機会を設定し、目の前の子どもにとって本当に必要なことを洗い出し、そこから研究テーマを設定したり、共同研究にするか、個人研究にするかを決定

することが大切である。

研究テーマ設定にあたっては、十分に時間をかけ共通理解を図ることもまた大切なことであろう。

◇ 視点⑦ 指導助言の在り方の視点から

問 題 点	具 体 的 取 り 組 み
<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 教員として読書量は十分か。</li> <li>◦ 研究協議会の内容は充実しているか。 (決まった教員だけが発言したりしていないか。)</li> <li>◦ 研究の必要性、大切さを十分認識しているか。</li> <li>◦ 協調性、独創性、創造性が不足していないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 研究図書の紹介をしたり、研究学校の研究内容を知らせたりする。</li> <li>• 週案等で対話し、その後もしっかり見るようにする。</li> <li>• 教育関係図書を定期的に本屋さんに展示してもらう。</li> <li>• 「共に学び合う」という気持ちを持つことの大切さを説く。</li> <li>• 一人ひとりの教師の特性を見抜いて、それに応じた指導助言に心掛ける。</li> <li>• 学年ブロックや教科ブロック等の組織を生かすようにする。</li> <li>• 全員が出番のあるような研修に努めている。</li> <li>• 講師を招聘する。</li> <li>• 先生方のニーズに合った外部講師を積極的に活用するように努めている。</li> <li>• 先を見せ、上を見せるようにする。 (例えば、職能研修であれば、その段階の先まで見せておくことが大事である。)</li> <li>• 自己課題を明確にさせ、自分から進んで勉強したり調べたりするよう励ましている。</li> <li>• 子どもの変容が見える研究とし、研究成果を十分に味わえるようにする。 (成就感、満足感を感得させる。)</li> <li>• 個人研究を大切にする。 (本人のやりたいことをじっくりとさせる。)</li> </ul>